

令和5年度 公立鳥取環境大学
学校推薦型選抜（Ⅱ型）問題

小 論 文
(環境学部 90分)

(注意事項)

1. 解答開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は4ページ、解答用紙は2枚です。
3. 解答用紙の所定欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
4. 解答用紙は横書きです。
5. 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰りなさい。

以下の文章は武内和彦『世界農業遺産-注目される日本の里地里山-』（2013）の一部を抜粋、改変したものである。これを読んで後の問いに答えなさい。

世界農業遺産の英語での正式名称は、Globally Important Agricultural Heritage Systems といい、その頭文字をとって「GIAHS」（ジアス）と呼ばれています。

GIAHS は、近代工業化が進むなかで、失われつつある伝統的な農法や農業技術をはじめ、生物多様性が守られた土地利用や美しい景観、農業と結びついた文化や芸能などが組み合わせ、ひとつの複合的な農業システムを構成している地域をさします。

そうした地域のシステムを一体的に維持し、次世代に継承していくことが、世界農業遺産認定の目的です。一般的には、システムという言葉が、少しわかりにくいかもしれませんが、静岡県掛川地域の GIAHS サイト(認定地域)である、静岡の茶草場を例にとって見てみましょう。

この地域の茶畑の周囲には、「茶草場」と呼ばれる草場が長年にわたって管理されています。そこからススキなどの草を刈りとって茶畑に敷きこむ「茶草農法」という、伝統的な農法が行なわれています。それによって品質の高いお茶ができ、高い価格で取引されます。なぜ、草を敷くことでお茶の品質が向上するのかは、科学的にはまだ証明されていませんが、生産農家の経験から長年伝えられてきました。

茶草農法によって、お茶の生産をめぐる文化や技術が育まれると同時に、日本で絶滅しつつある草場とその景観が維持され、生物多様性が守られています。こうした地域農業の営み全体を農業システムとしてとらえています。

GIAHS は、2002 年に南アフリカのヨハネスブルグで開催された、「持続可能な開発に関する世界首脳会議」（通称「ヨハネスブルグ・サミット」）で、FAO^{注1}が提唱したものです。これをうけて、2004 年の GIAHS 運営委員会において、青田の水田養魚(中国)、イフガオの棚田(フィリピン)、アンデス農業(ペルー)、チロエ農業(チリ)、オアシス農業(アルジェリアとチュニジア)などが、最初の GIAHS パイロット・システムに認定されました。2013 年 6 月現在、世界 11 力国の 25 地域で選定されています。その実務一般は、FAO が担っています。しかし、実際に運営しているのは、関係国、援助機関、国際機関をはじめ、地域の農家や住民、自治体、農業団体、大学や研究機関、企業などが、国際会議などを契機に構築した、緩やかにつながり合うグローバル・パートナーシップによるものです。いわば、現地の意識に支えられた自主性こそが原動力なのです。

というわけで、(A) FAO の活動のなかでも、GIAHS は、かなり特殊な取り組みとして位置づけられています。なぜなら、そもそも FAO が存在する最大の目的は、世界の人々を食糧不足による飢餓から救うことだからです。その最大の目的のために、品種改良や耕地の拡大を進めて食料の増産をはかり、人口増加に見合う食料の供給に苦慮してきたという、長い歴史がありました。その象徴的な活動が、「緑の革命」です。

しかし、従来の取り組みについては一定の評価がなされる一方で、地域の暮らしや文化、生物多様性の維持といった価値観と、必ずしも調和的でないという問いも提起されるようになってきました。そうした模索の結果、FAO のもうひとつのアプローチ、「プラン B」として生み出されたのが、GIAHS の考え方です。

私が一般の方を前に、GIAHS(世界農業遺産)について話をさせていただくとき、いちばん多く受ける質問が、「世界遺産と何が違うのか」というものです。どちらも「遺産」を名乗っていますが、その内容は大きく異なります。

(中略) 国連が認定・登録している「遺産」のなかでもっともよく知られているのは、やはり「ユネスコの世界遺産」でしょう。これは、世界自然遺産や世界文化遺産をはじめ、無形文化遺産、世界記憶遺産など、多岐にわたっています。

このうち、世界自然遺産は、国際的な自然保護団体である「IUCN」(国際自然保護連合)が評価にあたっています。そして、残された自然の姿をきちんと守るために、外来種を駆除するとか、観光客の受け入れを制限するなどといった具体的な策を求めています。

もうひとつの世界文化遺産は、国際的な NGO である「ICOMOS」(国際記念物遺跡会議)が評価にあたっています。2013 年に富士山が世界文化遺産に登録されましたが、このとき、三保松原を構成要素にふくめるかどうか議論になったのを、覚えている方もおられるでしょう。ここでは、防波堤など、景観を阻害しているという要素が議論の対象となりました。しかし、砂浜の侵食が進んでいる三保松原では、防波堤は侵食を防ぐために必要な施設です。一方、ユネスコの世界遺産が求める価値観のもとでは、防波堤は望ましくない施設となります。なぜなら、自然遺産は「手つかずの自然」のまま、文化遺産は「当時あった形」のままに保存されなければならないからです。県知事の川勝さんは、消波ブロックに代わる、景観に配慮した方法を検討すると表明しています。

手つかずのもの、古いものを最上とするユネスコ世界遺産とくらべて、GIAHS でいうところの「遺産」とは、代々引きつがれてきた知恵の遺産により重きをおいています。それは、時代の変化や環境の変化によって移り変わっていくものです。よりよい方向への変化を可能にする伝統的な知恵の蓄積が「遺産」であるという考え方です。

つまり GIAHS は、変わりゆく遺産であり、進化する遺産であり、それゆえに、(B) 持続可能な農業を体現した遺産として認められます。GIAHS が認定するのは、表向きは伝統的な農法であったり、農業構築物であったりしますが、大切なのはあくまでも、それを維持・管理する人たちと一体となったシステムです。

ですから、独自性は必要ですが、価値の基準は、古いか新しいかではありません。GIAHS の遺産的価値からすれば、いくら古くても、すでに人の手を離れ、放置されたもの、忘れ去られてしまったものに、価値はありません。

世界農業遺産基金のパルヴィスさんは、よく「GIAHS はパスト(過去)ではなく、フューチャー(未来)についてだ」といっておられますが、ここが、ユネスコの世界遺産の考え方とは大きく異なる点であり、GIAHS の考え方のなかで、もっとも重要な点です。

<<中略>>

ここで、FAO が長らく活動の中心においてきた、「緑の革命」について、もう少し補足しておきましょう。緑の革命には、「品種改良」と「耕地の拡大」という、二つのアプローチがあります。

品種改良は、すでにある品種を何代にもわたって掛け合わせ、生産拡大できる品種、病原

菌に強い品種、厳しい天候条件に耐えられる品種、なによりもその土地に合った最良の品種を探し出すのが一般的ですが、それには長い年月が必要です。手っとり早い方法として、近年は「遺伝子組み換え」の作物が導入されています。アメリカなどは、この方法で生産性を飛躍的に向上させていますが、日本では、安全性をめぐる論争が続いているのは周知のとおりです。

また、耕地の拡大は、文字どおり開拓によって農地面積を増やしたり、機械化したりすることです。すなわち農業の大規模化です。緑の革命によって、食糧生産は飛躍的に増大し、過去50年間で約3倍に増えたといわれています。その成功例が、フィリピンのロスバニョスにある「IRRI」（国際稲研究所）でしょう。ここでの研究成果から、1940年代から60年代にかけて、高収量品種の導入や化学肥料の大量投入などを実践した結果、生産性が飛躍的に向上し、稲の大量生産を達成しました。1966年には、IR8という高収量の稲の開発に成功し、この品種が普及することで、アジアではほとんど飢餓がなくなったわけです。

ところがその一方で、緑の革命によって、農地の質の悪化や地下水の枯渇、ひいては砂漠化、土地の荒廃など、地球環境に多大な悪影響がおよぼされていることが指摘されるようになりました。

たとえば、アメリカの穀倉地帯は、大量の地下水を汲み上げて大規模農業を行なっていますが、砂漠のような灼熱の農地に大型スプリンクラーで散水しているわけですから、当然のことながら地下水の枯渇が問題になってきます。日本は、そういうところで生産された穀物を大量に輸入しています。表現をかえれば、大量の水を輸入しているようなものです。東京大学生産技術研究所の沖大幹さんは、「バーチャル・ウォーター」という概念から現状を分析し、食糧の輸入にともなって大量の水を輸入している貿易の構造を明らかにしています。

さて、緑の革命はアジアでは一定の成功をおさめました。アフリカではうまく行きませんでした。高収量品種の栽培に必要な灌漑システムがなかったり、農民に化学肥料を買うだけのお金がなかったりしたためです。

そうした流れのなかで、FAOによる自己反省から出てきた取り組みのひとつが、GIAHSです。シルバ事務局長の話では、とくにアフリカについては、これまでと違ったアプローチが必要だと考えているようです。

注1) FAO・・・国際連合食糧農業機関 (Food and Agriculture Organization of the United Nations)。世界の農林水産業の発展と農村開発に取り組む国連の専門機関。

問1：下線部(A)について、GIAHSがなぜ特殊と位置づけられるのか100字以内で説明しなさい。

問2：世界遺産と比較した場合の農業遺産の特徴を130字以内で説明しなさい。

問3：下線部(B)について、持続可能な農業とはこの場合どのような農業を意味していると考えられるか50字以内で説明しなさい。

問4：緑の革命は人類にどのような影響をもたらしたか。本文の内容を参考に150字以内で説明しなさい。

問5：この後に続く文章で著者は、今後の農業の方向性として近代農業や伝統的農業でもない第三の道を探るべきだと主張している。それはどのような農業の方向性だと考えられるか。本文の内容を参考に自分なりに考え300字以内で説明しなさい。